

第13回 TIAナノグリーン・サマースクール開催報告

環境・エネルギー分野のイノベーション、いわゆるグリーンイノベーションに貢献する人材を育成するための教育プログラムとして、本年もナノグリーン・サマースクールが9月10日から9月12日の日程で開催されました。実施・運営を行った大谷実教授にお話を伺いました。

TIA 連携大学院サマー・オープンフェスティバル2025の一環として、2025年9月10日から12日までの3日間、第13回 TIAナノグリーン・サマースクールが開催されました。本スクールはナノグリーン分野の研究に関心をもつ大学院生および社会人を対象としており、今年度は書類選考を経て参加者を受け入れました。対面形式で実施し、筑波大学総合研究棟B棟112室にて講義を行いました。

今回も、講義には世界の第一線で活躍する8名の講師をお招きし、それぞれ90分間で先端計測、化学変換、放射光分析、光機能性有機材料、太陽電池、バイオマス利用など、ナノグリーン分野に広く関わる基礎から応用研究まで幅広い内容をご講演いただきました。参加者からは活発な質問が多く寄せられ、本分野に対する理解をさらに深めようとする姿勢が随所に見られました。また、参加者にはグリーンイノベーションに関連する3つの課題から1つを選び、考察をまとめるレポートの提出を求め、筑波大学教員が評価を行いました。講義中に撮影した写真は、今後の広報活動に活用する予定です。

1日目に行われた始業式では、教員紹介、参加者の自己紹介、そして課題の説明を行い、スクールの目的や進め方について共有しました。2日目のプレゼンテーションセッションでは、参加者が事前に提出した研究概要に基づき、10分間の口頭発表を行いました。専門外の参加者にも伝わるよう、自身の研究内容を簡潔かつ分かりやすく説明することが求められ、その後の質疑応答では、筑波大学教員審査員、ならびに他の参加者から多角的な視点に基づくコメントが寄せられました。

発表者はいずれも積極的に議論に参加し、研究内容をより良く伝えようとする努力が感じられました。今回の発表経験は、今後の研究推進に向けた貴重な学びの機会となったはずです。

最終日の講義終了後に集まったの修了式は実施しませんでした。研究概要・研究発表・提出レポートの内容を総合的に評価した結果、今年度は参加者全員を優秀賞受賞者として認定しました。修了証および優秀賞は、後日、各参加者の指導教員を通じて手渡されました。大学院教育では講義を受け、その後各自で復習する一方向的な形式が多く、コロナ禍以降のオンライン講義ではその傾向がさらに強まりました。そのような中、本サマースクールのように学生が自ら積極的に参加する双方向の機会は極めて重要です。本スクールで得られた経験は、参加者が今後研究者として成長していく上で、必ず有益なものになると考えています。



講義風景

開催日	2025年9月10日(水)～9月12日(金)
会場	筑波大学 総合研究棟B
主催	筑波大学大学院数理物質科学研究群, エネルギー物質科学研究センター(TREMS)
共催	物質・材料研究機構(NIMS)
構成	講義8コマ+プレゼンテーションセッション(レポート提出)
参加者数	3名(大学院生 3名) 他聴講生あり
受賞者	優秀賞 3名

TIA連携大学院 News Letterのバックナンバーは、ウェブサイトでご覧になれます。 <https://tia-edu.jp>



●編集・発行・連絡先：

国立大学法人 筑波大学 TIA推進室 tia-edu@un.tsukuba.ac.jp
〒305-8571 茨城県つくば市天王台1-1-1